

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年4月8日

【評価実施概要】

事業所番号	0177100278		
法人名	株式会社 北星		
事業所名	グループホーム なの花すながわ		
所在地	〒073-0171 砂川市空知太1条3丁目3-22 (電話) 0125-56-2020		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成22年3月10日	評価確定日	平成22年4月8日

【情報提供票より】(平成 22年 2月 22日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	16年	3月	12日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18	人
職員数	17人	常勤	13人,	非常勤 4人, 常勤換算 14.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	23,000	円	その他の経費(月額)	12,000~18,000	円	
敷金	有(円)	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無		
食材料費	朝食	250	円	昼食	300	円
	夕食	400	円	おやつ	50	円
	または1日当たり	1,000	円			

(4) 利用者の概要(2月22日現在)

利用者人数	17名	男性	4名	女性	13名
要介護1	10名	要介護2	5名		
要介護3	1名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 81.5歳	最低	64歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団明円医院、さとう歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、地域貢献のため平成16年に砂川市に初めて設立されたグループホームである。住宅街の中にある広い敷地に立地し、利用者の自立した生活を支えるバリアフリーの建物となっている。昨年、中庭を囲む形で隣接地に新たなグループホームを設立し、施設長は両事業所を兼務し、新しい体制となっている。看護師の配置や職員の研修に力を入れ、理念の一つでもある利用者の安全で安楽な生活の実現のための取り組みを行っている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	運営推進会議を活かした取り組み、運営に関する家族等意見の反映などの前回評価で改善課題となっていた項目については、新たな管理者の下、改善に向けて具体的な取り組みを予定している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員一人ひとりが自己評価に取り組み、記載が難しい項目について管理者が説明している。初めて取り組む職員の視点やベテラン職員の深い理解など、取りまとめの際には職員で活発に意見を交わしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	平成21年1月以降運営推進会議の実施は中断している。新しい管理者の下、新年度からの定期的な実施に向けての取り組みを予定している。多様な参加者への呼びかけや開催方法、内容の工夫などについて検討を行っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	様々な相談機関があることを事業所内に掲示することで利用者や家族等へ伝えている。前回の外部評価で課題となっていた重要事項説明書等への外部の相談機関への相談窓口の掲載は、早急に着手する予定となっている。意見などを受け付けた場合は、職員が共有し改善について話し合いを行い、迅速に対応している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	利用者の散歩のコースは「なの花ロード」として、車の徐行を呼びかける看板が町内会によって設置され、地域で利用者を見守り、支えている。所属する町内会以外からも婦人会や学校、一般のボランティアの訪問などがある。夏祭りに近隣住民を招くなど地域に対し開かれた事業所となっている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成16年の開設時に、事業所の運営理念と介助理念を策定している。昨年の4月に職員アンケートを行い運営委員会で検討しながら地域で利用者を支えていくという視点を盛り込んだ理念を加えている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員のネームプレートの裏に4項目からなる理念を記載し、職員の休憩室にも掲示するなど折に触れて確認している。毎月のカンファレンスや申し送り時に理念を復唱し、共有している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、事業所の理念を掲載した便りを回覧するなど、地域と協力するよう努めている。利用者と一緒に清掃などの町内会行事に参加したり、散歩などの際に挨拶などを通じて地域との交流を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価のねらいや意味を説明し、職員それぞれが自己評価に取り組んでいる。項目に沿いながら業務分担や取り組み状況も管理者が職員に説明し、職員の事業所全体の業務の流れの再確認にもつながっている。ユニットごとに取りまとめ、職員全員で検討を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は平成21年1月以降実施していない。管理者の交代があり、新年度から新たに取組んでいくことになっている。今回の外部評価結果についても運営推進会議で話し合い、改善につなげる予定である。	○	運営推進会議は、運営のモニター役としても、質の向上のための助言や協力関係を作っていく上でも大切な取り組みである。幅広い参加者から定期的に意見を汲み上げる仕組みづくりが期待される。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	砂川市の介護保険課担当者と定期的に連絡を取り、訪問を受けるなど、日ごろから連携を取れるように心がけている。砂川市公民館のボランティア情報を活用しボランティアの依頼を行うなど専門機関と連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の体調や暮らしぶりの変化があった場合は、随時電話で連絡を行っている。家族が来訪した際に金銭管理の報告等を行っている。写真を掲載している「なの花新聞」で定期的に利用者の様子を伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部の窓口と事業所の受付担当者を事業所内に掲示している。また、外部の認知症の家族の会を通知するなど、様々な相談方法を示している。意見等を受け付けた場合は職員連絡ノートなどに記載し共有するとともに、迅速に対応するよう努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニットごとに、年齢や経験、資格等を考慮し職員をバランスよく配置している。職員はユニット間を行き来し、異動があった場合にもあまり影響がないよう配慮している。新しく職員が加わる場合は2週間以上先輩職員と業務を行い、馴染みの関係を構築するよう努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が外部研修に年1、2回満遍なく参加できるようにしている。研修の参加費の負担や業務時間として認めるなど、職員が参加しやすい環境を整えている。業務を通じて職員が互いに教えあいながら「専門的な知識を持ち、心身ともに安全・安楽に支援する」という理念の実践を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	中空知地域で認知症を支える会や地域包括支援センターの呼びかけで開催された職員向け研修に参加し、職員間の交流や情報交換を行っている。また、様々なネットワークを活用し、市外のグループホームから講師を招き勉強会を開催している。	○	同業者との交流を促進することは、事業所で行き詰っている問題の解決や活性化、サービス水準の向上に結びつく取り組みの一つとなる。ネットワークを通じて、他の事業所見学や相互の職員研修の受け入れなどの具体的な取り組みが期待される。
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用の相談があった場合は、まず訪問し、事業所の説明を行っている。本人や家族へ事業所の見学を勧め、お茶やおやつを利用者と共に食べながら過ごすなど、雰囲気を感じることができるよう努めている。午前中だけの通いや宿泊を増やしながら利用開始に至った例もあるなど、本人に合わせた対応を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は、調理や清掃などを職員と一緒に、感情を共有しながら過ごしている。職員はコミュニケーションを大切にし、利用者の生活歴の中から地域の歴史や習慣を学ぶなど、人生の先輩として尊敬している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントはセンター方式を活用し、3ヶ月ごとに暮らしの情報シートに情報を蓄積し、利用開始からの変化が時系列で分かるように整理している。日々の生活の中で把握した利用者の希望を記録し、共有しながら職員が検討を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の記録や24時間の利用者の様子を記録する焦点情報記録用紙などを活用し、職員が全員で計画作成の話し合いを行っている。計画作成担当者が職員の意見を取りまとめ、利用者と家族の意向を盛り込みながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎にモニタリングを行い、職員各自が24時間アセスメントを持ち寄り色々な視点から検討している。また、半年毎に、計画の評価とケアプラン導入シートを活用し職員全員で検討し介護計画を見直している。生活状況や体調に変化があった場合などは、随時変更を行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	看護師や職員による利用者の通院の支援や、買い物などの外出に対応している。利用者の楽しみにつながるボランティアの要請など、地域資源も活用しながら取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や本人の意向で通院支援を行っている。事業所の看護師が受診の結果を記録し、家族への連絡を行っている。定期的に往診医の訪問があり、事業所看護師との連携で日常の服薬支援や健康管理に活用し、必要な場合は適切な受診に結び付けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に近づいた場合は、医師の見解と共に、看護師から家族に分かりやすく伝え話し合いを行っている。利用者や家族との話し合いのための事業所の方針は明文化するまでには至っていない。職員間で重度化に関する話し合いを行っているが、実際の事例はまだない。	○	利用者や家族にとって、終末期の対応は安心して生活するために知りたい情報の一つである。事業所としての方針を定め、利用開始の際や、できるだけ早期から意向を確認していくことが望まれる。現在の利用者にも同様に機会を捉えて事業所の姿勢を伝え、意向を把握していくことが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	その人らしさや、尊厳について採用時に説明し、実際のケアの場面で声かけや羞恥心に配慮した支援について具体的に伝えている。また、個人情報に記載した書類はカウンター内部に保管している。実習や研修の受け入れの際も、事前に説明を行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用開始前の生活歴を参考にしながら、暮らし方やそれまでの社会的なつながりにも配慮しながら支援している。健康状態や気分など、その日の希望を大切に、信仰を守った生活などにも配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週に2回利用者と一緒に食材の買出しに行き、旬の食材や希望を取り入れている。毎食、冷蔵庫の食材を見ながら利用者と共に献立を考え調理を行っている。油や刃物など安全に配慮し、利用者の力を発揮してもらう場としている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の希望には毎日応じており、同性介助を基本とし週2回以上入浴している。足浴や清拭など、体調などにも配慮して行っている。入浴剤を利用したり、声をかけるタイミングを見計らったりしながら気持ちよく入浴できるよう支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	献立づくりや準備、調理、片付け、掃除、ユニット間での新聞や牛乳の配達など、利用者に合わせて役割の支援をしている。また、畑での野菜の栽培や収穫、詩吟、カラオケ、DVD、手芸等、多彩な楽しみごとの支援も行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所周辺は、スピードダウンの看板が立てられた散歩コースになっており、山菜摘みもできる。裏には広い畑があり、テントやテーブル、椅子などを設置しくつろぐこともできる恵まれた環境を活かし、閉じこもらないよう、支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は日中、施錠を行っていない。中庭に出る出入り口にも施錠しておらず、庭に自由に出られるようになっている。職員は施錠をして不穏になった事例などを検討し、鍵をかけることの弊害を学んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を行い、火災報知機の対応方法の研修も合わせて行っている。食料品など備蓄している物品もあるが、災害対策は地域の協力体制を含めて今後も継続して取り組みたい課題である	○	運営推進会議などを通じて、避難訓練への地域住民の参加や関係機関との連携を深め、利用者の安全確保に努めることが望まれる。利用者の身体状況や季節や時間帯、災害種別に課題を抽出し、取り組んでいくことが期待される。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	家庭的な献立となっており、摂食量や水分量の記録を行っている。嚥下能力などに合わせ調理や形状の工夫を行っている。しかし、カロリー、塩分などの目安がないため、高齢化や疾病への対応が課題となっている。	○	定期的に保健所の栄養士などに献立のアドバイスを求めたり、職員が利用者の特性に合わせた栄養的な知識を学ぶことが望まれる。また、調理の際、同じような献立が頻出しないよう、前日何を食べたかを共有することも期待される。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所は広々とした作りになっており、トイレも込み合わないよう余裕をもって設置している。長い廊下は散歩や手すりを使用している。長い廊下は散歩や手すりを使用している。食堂や談話室も家族などを招いて行事を行うにも十分な広さがあり、利用者は思い思いに過ごすことができる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの家具や電化製品を持ち込み、利用開始前の生活の継続に配慮している。仏壇への日常の水やご飯のお供えを支援したり、身体状況によって危険がないかを含め目配りを行い、清潔に整えている。		

※  は、重点項目。